

# 一つの土台と三つの柱

校長 山田 浩之

入学式と始業式を待っていたかのように桜が、花を開き、令和六年度がスタートしました。入学・進級と、それぞれに期待と不安を胸に登校している姿に、新年度の教育活動への思いを新たにしました。

令和六年度、新潟小学校は、「たくましく 美しく」の教育目標の下、「えがおあふれる学校」を目指します。そのために、一つの土台と三つの柱に力を入れます。

土台は、生徒指導に関する問題への対応を迅速に丁寧に行うことです。これは、令和五年度、新潟小学校が全力で取り組んできたことです。いじめも不登校も子ども同士のトラブルも、まずは未然防止にも取り組みますが、発生したら、速やかにチームで対応することを徹底します。子どもはもちろん、保護者も職員も、悩みを抱えたままで、笑顔になることはできません。「あふれる」までになるには、子どもの困りごとを無くす必要があります。土台がしっかりしていないと、柱もぐらつき、建物も傾いてしまいます。まずは、土台をしっかりさせることを大切にしていけます。

柱の一つめは、個別最適な学びの在り方を探る研修に取り組むことです。

子ども一人一人、関心のある学びは違い、得意不得意も違います。当然、一人一人に合った支援や指導も違ってきます。しかしながら、一人の授業者が三〇人の子ども一人一人に最適な学びを届けることは、簡単なことではありません。どのような方法が良いのか、新潟小学校の子どもに合っているのか、探っていけます。

柱の二つめは、協働的な活動への取り組みです。子ども同士が関わりを広げ、深めることは、子どもの社会的なスキルの向上にとどまらず、自己肯定感の向上や思いやりや寛容性を高めることが期待できます。子ども同士が協働する姿に注目して、教育活動を進めていけます。

柱の三つめは、支援を必要としている子どもに適切な支援を届けることです。学校が、できる限りの中で、支援を必要としている子どもの学習や生活を支えていきます。その上で、周囲にいる人々（子どもも大人も）の理解が、一層深まるように必要なことをお伝えしていきます。

全職員で力を合わせ、土台を整え、柱を立てて、えがおあふれる学校を築いていきます。